

# 財団法人 有機質資源再生センター

## 平成 19 年度 事業報告書

### 1. 庶務事項

- 1-1 「平成 18 年度事業報告書並びに決算書」を「寄付行為」第 12 条に基づき平成 19 年 5 月 25 日農林水産大臣に提出した。
- 1-2 役員改選による「登記変更に伴う届出書」を「農林水産大臣所管に属する公益法人の設立及び監督に関する規則」第 5 条に基づき平成 19 年 8 月 20 日農林水産大臣に提出した。
- 1-3 監事改選に伴う「監事の異動届出書」を「農林水産大臣所管に属する公益法人の設立及び監督に関する規則」第 5 条の 2 に基づき平成 19 年 8 月 20 日農林水産大臣に提出した。
- 1-4 「平成 20 年度事業計画書並びに予算書」を「寄付行為」第 11 条に基づき平成 20 年 3 月 31 日農林水産大臣に提出した。

### 2. 会員数の状況

平成 19 年度末（平成 20 年 3 月 31 日）現在の会員数は次の通りである。

#### (1) 賛助会員

個人会員	10 名（12 口）
民間団体会員	17 社（18.5 口）
公共団体会員	1 社（10 口）

#### (2) 特別賛助会員

民間団体会員	10 社（11 口）
--------	------------

### 3. 会務の会合

平成 19 年度の各種会合開催状況は次の通りである

会合名	
理事会	平成 19 年 5 月 18 日
	平成 19 年 9 月 5 日
	平成 19 年 12 月 19 日
	平成 20 年 3 月 5 日

評議員会 平成19年5月18日  
平成20年3月5日

常務理事会 平成19年5月1日  
平成19年7月26日  
平成19年10月17日  
平成19年11月21日  
平成20年2月20日

#### 4. 事業の実施概要

平成19年4月の平田彰前理事長の急逝を受け、新理事長に平富郎が就任し、新たな体制での今後の財団事業活動の基盤作りへ準備を進めた平成19年度であった。そのため事業活動内容についても、常務理事会メンバー理事を中心に、取り組むべき事業内容を協議の上選定を進めた。

その中ですでに平成18年度より進めていたディスプレイ関連の研究活動は、論文発表による成果の内容が黒部市からの評価を受け、同市からの影響評価受託事業として実施されることになった。

一方で、すでに前期より当財団は財政的にたいへん厳しい状況にあったため、当事業年度においては、財政的基盤を今後とも確立していくため、まず財団活動に中心となって支援をいただける特別賛助会員および賛助会員を募ることを進めた。会員の方々に対しては、ホームページの内容充実により、財団の状況および活動内容についての情報公開を進めた。

あわせて今後事務局の体制を整備し、今後の財団活動を円滑に進め、役員および会員の交流を活発化するための拠点とすべく、平成20年3月に財団事務所を四谷に移転した。

#### 5. 会員募集事業

新理事長の食品流通業界における実績を背景に、大手食品卸、食品小売業など、食品残渣のリサイクルをはじめとする有機質リサイクルに関係の深い事業者に対し、財団活動支援をお願いし賛助会員入会募集を進めた。

#### 6. 受託調査事業

◆黒部市ディスプレイ導入効果・影響評価

#### [概要]

バイオマスタウン構想の一環として、富山県黒部市が域内の住宅、事業所にディスポーザを設置して、生ごみを下水道で搬送し、回収後、メタン発酵・エネルギー転換するバイオマスリサイクル事業を開始するにあたり、下水道施設での生ごみ回収計画の環境、行政サービスコストへの影響評価を(財)有機質資源再生センター循環型社会研究所で受託し、年度内に報告を完了し、受領された。また、同報告は、黒部市を經由して国土交通省に報告された。

・報告書：本文51頁、添付資料57頁

### 7. 委員会参加活動

#### ◆北九州市ディスポーザ検討委員会出席 (08/01/10、02/13)

#### [概要]

北九州市で、住宅にディスポーザ設置を認め、下水道で生ごみを回収、利活用する計画の影響を検討する北九州市ディスポーザ検討委員会（委員長：北九州市立大学楠田教授）に(財)有機質資源再生センター循環型社会研究所長・清水が出席した。

### 8. 研究助成活動

平成18年度に引き続き、早稲田大学理工学研究総合センターの常田聡研究室が実施する「家畜廃棄物の処理・再生技術に関する調査研究」に対して助成金を支給した。

助成金額： 120万円

報告書： 家畜排せつ物の処理・再生技術に関する調査研究(本文51頁)

### 9. 広報活動（論文掲載）

学術論文誌に1報掲載完了、5報を(財)有機質資源再生センター循環型社会研究所名で投稿。

※下線著者・・・(財)有機質資源再生センター循環型社会研究所所属研究員

[掲載済み学術論文]

- ① 清水康利、山海敏弘、豊貞佳奈子、山崎宏史、ディスポーザ排水処理システムを利用したバイオマスリサイクルシステムの環境・社会影響評価、下水道協会誌、45, 545, 113-124 (2008. 03)

[投稿中論文]

- ① 山海敏弘、土岸教通、豊貞佳奈子、北口かおり、清水康利、既設戸建て住宅設置ディスポーザの不具合事例、配管施工実態調査と排水搬送性、日本建築学会環境系論文集、第73巻、第627号647-651(2008.05)
- ② 清水康利、山海敏弘、豊貞佳奈子、大塚雅之、家庭用厨芥処理機器のLCCO<sub>2</sub>評価、日本建築学会環境系論文集、第73巻、第627号653-659(2008.05)
- ③ 北口かおり、山海敏弘、清水康利、豊貞佳奈子、住宅における生ごみ発生量およびディスポーザの使用に対する意識の地域比較、廃棄物学会誌投稿中
- ④ 豊貞佳奈子、柵山実、清水康利、山海敏弘、岩手県岩手町におけるディスポーザ導入時の下水処理施設への影響評価、下水道協会誌投稿中
- ⑤ 豊貞佳奈子、柵山実、清水康利、山海敏弘、岩手県岩手町におけるディスポーザ導入時のLCCO<sub>2</sub>評価、下水道協会誌投稿中

10. 広報活動（講演・視察会）

独立行政法人産業技術総合研究所主催の粒子・流体プロセス部会流動層分科会が、平成19年12月7日（金）に福島県いわき市にて開催したガスプラント見学会に当財団他が協賛し実施した。

11. 広報活動（会員広報）

財団のホームページを拡充し、財団の情報公開を推進すると共に、認証事業、受託調査事業への受託公募、協賛セミナーの開催案内など、ホームページの積極的活用を図った。会員への情報提供のため会員専用ページの運用も進め、受託事業成果報告等の展開を図った。

以上

前述のとおり報告いたします。